

6年1組		指導者	〇〇〇〇	教科等	理科
単元	単元名等		ものの燃え方		
	目標		評価規準	※どちらかを選択し、 <u>で囲ってください。</u>	
	知識及び技能		知識・技能	○物体が燃えるときには、空気中の酸素が使われて二酸化炭素ができることを理解している。 ○燃焼の仕組みについて、観察、実験などの目的に応じて、器具や機器などを選択して、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。	
	思考力、判断力、表現力等		思考・判断・表現	◆ <u>燃焼の仕組みについて、問題を見だし、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。</u> ○燃焼の仕組みについて、観察、実験などを行い、物が燃えたときの空気の変化について、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している。	
	学びに向かう力、人間性等		主体的に学習に取り組む態度	○燃焼の仕組みについての事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしている。 ○燃焼の仕組みについて学んだことを学習や生活に生かそうとしている。	
	単元の学習展開（全10時間）				
	導入	□問題を見だし、学習計画を立て、見通しをもつ			
展開	□予想や仮説を基に、観察、実験などを行い、結果を考察する ・ろうそくの燃え方と空気の動きの関係について ・ろうそくが燃える前と後の空気の変化について ・木や紙が燃えたあとの空気の変化について				
終末	□物が燃えたときの空気の変化についてまとめる				

本時 (4 / 全10時間)	ねらい	燃焼の仕組みについて、蓋をした集気びんの中で、ろうそくが消える様子を観察したり、ろうそくの燃焼前後の空気は何が違うのかを予想したりすることを通して、 <u>問題を見いだす</u> ことができるようにする。 (下線部…単元の評価規準との関連【◆思・判・表 記述分析・発言分析】)	
	学習過程	「めあて」や『課題』の確認 「物が燃えるときの空気の変化について考えよう」 『ろうそくが燃える前と燃えたあとの空気では、ちがいはあるのだろうか』	
		本時で学んだことの『まとめ』や「振り返り」 『ろうそくの火が消えたあと、もう一度火のついたろうそくをびんに入れるとすぐに火が消えたので、空気にちがひがありそうだ』 『びんの中の酸素や二酸化炭素の量が変わっているかもしれない。→次回調べる』 「なぜ燃えるのか、なぜ火が消えるのかを考えれば、空気の変化が説明できるような気がする。同じ班の〇〇さんが言っていた二酸化炭素について私も調べたい」	
	努力を要する状況の児童生徒に対する手立て	【予想されるつまずき】	【必要な支援・手立て】
	観察の内容を記録できない	整理するための視点を示して記録させる	
	観察に集中できない	観察対象を録画し、I C T端末で繰り返し見られるようにしておく	
	問題を見いだせない	ろうそくの燃焼と空気の関係について、友だちと話し合わせるなど、個に応じた言葉かけを行う	